



つくしんぼたより 2月号



平成30年1月25日
石原かがやきこども園
体調不良児保育
担当: 鈴木・青木

寒いからといってうちの窓を閉め切っていませんか？ 長い時間換気をしない室内はウイルスや二酸化炭素、ほこりで汚れてしまいます。寒くてもこまめに換気を行い、空気の入替えを心がけましょう。

インフルエンザ流行中

1月5日にインフルエンザ注意報が高崎市でも出ました。成人の日の翌日あたりから高崎市内の児童のインフルエンザが急増しています。園では1月20日現在インフルエンザは 人です。

また、園では昨年秋からおたふくに罹る子が数名でています。潜伏期間が16日～18日です。耳の下からあごの腫れや痛みがある場合は、早めに受診しましょう。



インフルエンザ感染を広げないために

集団生活において感染症の流行は避けられない面もありますが、「感染を拡大させない」という点では、予防の徹底がポイントになります。園では、うがい、手洗い、消毒、換気、加湿器など、基本的な予防策を講じて、感染拡大の阻止に努めます。

ご家庭でも、うがい、手洗い、体調の悪いときは無理をせず、お家でゆっくり休んだり、早めに受診するなど感染予防にご協力ください。

歯科受診のすすめ

昨年6月に歯科健診がありました。むし歯や歯並びなどで受診のすすめになった方でまだ受診していない方は早めに受診しましょう。園からの歯科受診のすすめの用紙も忘れずに持って行ってくださいね。受診後、園に治療報告書の提出をしてください。



3つの首を温めよう

「かぜは首から引く」という言葉があるように、首、手首、足首が冷えると、体全体も冷え、かぜを引きやすくなります。首にはタートルネックのセーターやマフラー、手首には手袋、足首には厚手の靴下やレッグウォーマーを着用してしっかり保温をし、血流をよくしましょう。



急性中耳炎

乳幼児に多く見られる病気です。

鼻やのどに感染した風邪のウイルスや細菌が、耳官から中耳に達して、炎症を起こします。おとなより耳官が太く短い幼児は、鼻からウイルスや細菌が入りやすいので、風邪の時期には特に注意が必要です。

症状としては、夜泣き、不機嫌、耳の痛み(耳さわり)、耳だれなどです。聞こえが悪いといった訴えもあります。多くの場合、強い痛みと高い熱が出ます。

耳痛がひどい場合、熱が続く場合は、鼓膜切開することがあります。



つくしんぼ利用状況 発熱 4人 嘔吐 4人 頭痛 1人 ケガ 1人
今月の感染症情報(園) インフルエンザ 1人 おたふくかぜ 2人 溶連菌感染症 1人